

お話のせかいに入って音読げきをしよう
 「お手紙」
 アーノルド・ローベル作

めあて
 お話を四つの場めに分けよう。

- ・とうじょう人ぶつ
- ・がまがえるくん
- ・かえるくん
- ・かたつむりくん

場めん分けのしかた

- ・時間
 - ・場しよ
 - ・行どう
- を文しよから考える。

- ・小見出しのつけかた
- ・○○○ながまくん(かえるくん、かたつむりくん)
- ・○○○しているがまくん(かえるくん、かたつむりくん)

ここでは光村図書の教科書に合わせて
 ページを入れていきます。

場めん	ページ・ぎよう	小見出し(場めんの名前)
一	p.4 1.1 p.7 1.4	「お手紙をまっっているさびしそうながまくん」
二	p.7 1.5 p.8 1.11	「いそいでがまくんにお手紙を書くかえるくん」
三	p.9 1.1 p.14 1.8	「がまくんをはげますかえるくんとお手紙をまつがまくん」
四	p.14 1.9 p.19 1.3	「お手紙がとどくのをまつがまくんとかえるくん」

分かったこと・できたこと

- ・場しよがかわつたら、場めんもかわるといふことが分かつた。
- ・小見出しをつけるときは、「○○くん」といふ書き方にそるえると考えやすいといふことが分かつた。

【2 / 12時間目 指導路案】 使用するワークシート(場めん分け)活動のねらい

時間や場所、登場人物の行動などの視点をもつて全文を読み、場面分けができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

- 学級に掲示している学習計画で本時の学習を確認させる。

2 お話を四つの場面に分ける。

- ※(1) 一人で考える。

まず一人で考えさせます。机間指導をしながら、視点をもつて場面分けをしている児童がいたら、みんなの前でどのようにして分けたかを発表させます。

- ※ 分け方が分からないでいる場合は、次のいずれかをヒントにして考えさせます。
- ・ 時間の変化
- ・ 場所の変化
- ・ 登場人物の行動の変化

全体で考える。

時間や場所の変化に目を向けさせ、次の四つの場面に分けさせます。

【一の場面】	がまくんは、げんかんの前に・・・「ぼく、・・・しなくちやいけないことが、あるんだ。」
【二の場面】	それから、・・・がまくんの家へもどりました。
【三の場面】	長いことまっっていました。
【四の場面】	・・・とてもよろこびました。

3 それぞれの場面に小見出しを付ける。

- 誰が何をしている場面なのかを考えさせる。
- 書き方に統一感があるようにする。

【発問】一の場面は、誰が何をしている場面でしょう。
 ・「○○○ながまくん」といふ言い方でいふようになるでしょう。

評価 場所の変化に気付き、場面を分けている。
 (イー1)

4 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- 場面分けをするときは、視点をもつて読むとよいといふことをワークシートの振り返り欄で確認させる。

- 次時は、一の場面を読んでいくことを確認する。